

第4部 地域づくりの基本方向(素案)について

資料5

地域づくりに関する意見

- 茨城を地域住民が一緒に支えていくような、根本的な社会づくりのできる政策をぜひ掲げて欲しい。
- 人口傾向や県民意識などが県南部と県北部で異なる。南北の交流があまり良くないので改善すべき。
- ビッグデータやIoTを活用した施策で地域に人の流れを作って欲しい。
- 人口分散のいい面や大変なところなど地域の特性を考慮し、計画に盛り込むべき。

地域づくりの視点

1 地域が主体的に考える地域づくり

- ・ 地域の振興については、そのアイデアを各地域の住民・市町村・企業・団体などが主体的に考えていくことが最も重要。
- ・ 県は、各地域の多様な主体とともに将来のことを考え、地域の特長を活かした将来像を示し、今後目指すべき方向性を共有しながら、施策を展開していきたい。

2 広域交通ネットワークで相互に支え合う地域づくり

- ・ 地域の創意工夫のもと、相互に支え合うとともに生産性の向上に資する広域交通ネットワークの整備の在り方を検討する。

3 最先端技術を活用した特色ある地域づくり

- ・ 人口減少社会を乗り越えて行くためには、生産性を向上させる必要があり、ICTなどの最先端技術の活用が不可欠。農業・産業・教育・医療・福祉などの様々な分野において活用し、地域の活性化を図る。

地域区分の考え方に関する意見(市町村の意見から抜粋)

- 県北6市町は県の施策で交流があるが、海側と山側は違いがある。
- 県央地域は水戸市を中心に全体を発展させることを期待している。
- 鹿行5市は、分ける場合、農業主体の鉾田・行方と工業地帯・スポーツの鹿嶋・神栖。
- 県の施策はTX沿線に集中しているイメージがあるが、常磐線沿線の県南の沈んでいる側もしっかり見て欲しい。
- 定住自立圏構想の市町で頻繁に勉強会を行っているが、TX沿線側と圏央道沿線側は考え方が異なる。

地域区分の考え方

- 社会経済の結びつきや、地理的条件、歴史的背景などを勘案して、地域づくりを効果的に推進する観点から、県内を「県北」、「県央」、「鹿行」、「県南」、「県西」の5つの「地域」への区分を基本とする。
- 今後、地域が主体的に地域振興のアイデアを考えるにあたり、5地域区分では内部の産業構造の違いなどから、将来の発展の方向性が異なる点があることから、地域の意見や主要な交通インフラなどを基準にゾーニングを試みる。(別紙)
- これらの地域区分の境界は、いずれも弾力的なものとするが、地域の現状を定量的に分析する場合は、市町村の行政界で区分できるように設定する。

(別紙)新たな地域区分案

